

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：小杉善二 幹事：塩村喜代次

情報委員長：米沢修一

1979・11月1日 第152号

市民憲章の推進

— 美しき川は流れたり —

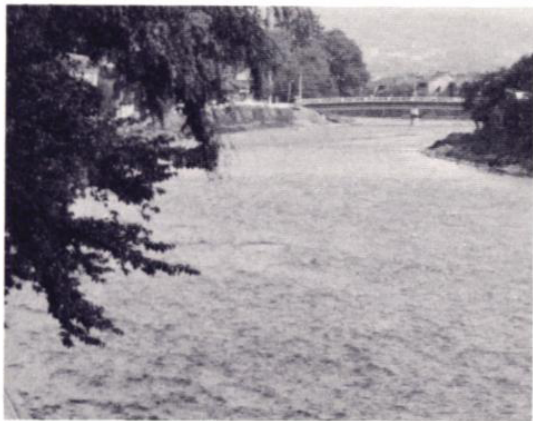
浅田 豊久 君

水と緑に恵まれた美しいまち金沢、古い時代人々は水のほとりに住みつき、そこから文化が栄えはじめた。世界の有名な都市はいづれも川をもっていてその都市の顔となっている。

金沢にも二つの美しい川がある。明るく清らかな犀川、細やかな情緒を湛える浅野川。金沢は二つの顔をもったまちといえるだろう。

このまちの歴史には二つの源流がある。一つは加賀百万石の城下町で育まれた武家文化である。茶道、謡、友禅、大樋焼など、いま私達の生活の中に脈々と流れている。

しかし私達はもう一つの流れに注目する必要がある。それは加賀の土着の民が持っている権力への抵抗の永い歴史である。



安政の米騒動で示した下層町民の反骨、天保のききに立ち上った勇氣ある人々。さらにさか上れば民衆の団結によって守護大名に打ち勝った一向一揆の心意気がある。これら自由を守った民衆の血は今もなお私達の中に流れている。

今年6月すばらしい市民憲章が出来上った。市民一人一人が金沢というまちに愛着とより住み良いまちづくりに努めねばなりません。

郷土を愛することは私達の住むまちの歴史を知ることである。それが市民憲章の精神に一步でも近づき道ではなかろうか。

— 金沢北RC例会講話から — (文責 米沢修一)

文化財拝見

⑦ 絹本着色

阿弥陀三尊来迎図

吉田昭炳氏蔵

制作年代は南北朝時代 (1366～1392)

この来迎図の三尊の顔容は繊細優美な線描で表現され、夢を見るようなまなざしと、しなやかな姿体はこの世のものと思われず、礼拝する人の魂を引きつけて離さない。保存状態もよく、すぐれた作画であり、貴重なものである。

浄土宗々宝。金沢市指定文化財。



私 の 名 刺

館 山 松 雄



この9月に金沢北ロータリークラブに入会が許され、クラブの一員として歓迎されました事を深く感謝致します。

私は昭和12年6月21日北海道は室蘭市で生まれ、高等学校（市立清水ヶ丘高等学校卒）迄室蘭市ですごしました。

その後上京し、明治大学へすゝみ卒業と同時に(株)博報堂へ入社。

15年間本社勤務を経て51年8月金沢に事務所開設と同時に当地へ赴任してまいりました。

開設当時営業所でありましたが業務拡大に伴い、1年2ヶ月後支社に昇格させ現在に至っております。

事務所開設に当っては、本社勤務では経験する事がない事務所の選定、計器の購入、女子社員の採用等自分一人でやった事は私の人生の良い経験となり、地元に着し根をしっかりとろした支社運営と心のかよう広告づくりをやらねばと気を引きしめております。

この度、ロータリークラブ入会に際しては東京でも御世話になっております石川会員と金沢で常日頃親しくおつき合いを戴いている浅田会員の推薦と同業種中村会員（シニアアクチブ）の了解のもと入会させて戴きましたが、ロータリーに関しては何も知らない私ですが、先輩の方々の御指導をあおぎ学びながらふれ合いを大切に、私にとって出来る事柄から身につけて行ければと考えております。

今後共よろしくお願い申し上げます。

新入会員紹介



鈴 木 透 短期大学

星稜女子短期大学学長 御所町西1番地
高尾2丁目7番地

TEL 51-1221

TEL 98-5315

会員番号 67

夫人 伏見子 趣味 尺八

入会 1979(昭54)10

長男 啓一

誕生 1922(大11)8-10

長男嫁 節子

結婚 1945(昭20)4-20

孫 貴之

所属委員会 親睦

推薦者 大村精二・清水忠

1979～80年度 国際ロータリー創立75周年 第261地区年次大会参加報告

小間井 宏尚

日時 昭和54年10月13日(土)・14日(日)

会場 七尾市民会館

連日素晴らしい秋空が広がる中、伝統の秘境能登半島の基点七尾市に於て、初めての年次大会が催された。

RI会長代理管理多利雄先生ご夫妻、バストガバナー各位、七尾市長、商工会議所会頭のご臨席を仰ぎ、参加ロータリアン 1,187名59クラブにもおよび、AM9:30 開会点鐘がすみきった今日の青空の様に打鳴られ、スケジュール通り大会が進行された。



RI会長メッセージに、菅野多利雄会長代理が立たれ、会長シェームズ・レボーマ氏の本年活動方針“Let Service Light The Way”「奉仕の灯で道を照らそう」について説明がなされ、そして奉仕はロータリー特有のものでなく庶民の哲学だと結ばれた。

続いて記念講演会「こころの世界」鎌田茂雄先生は「見の目」、「観の目」を、宮本武蔵・たくあん和尚・二宮尊徳・西行法師等の教えや考え方を混え、心とは「観の目」でありその目を支えるのは足だと力説されました。

午後より大会委員会報告が行なわれ、

決議第一号

国際ロータリー会長ジェームズ・レボーマ氏の年度目標協力の件。

決議第二号

国際ロータリー会長代理派遣に対する感謝の件。

決議第三号

国際ロータリー1980年～81年国際大会に協力の件。

決議第四号

荻布貞雄直前会長に対する感謝の件。

決議第五号

ホストクラブ・コホストクラブ並びに協力諸団体に対する感謝の件。

決議第六号

本大会開催地に記念品贈呈の件。

決議第七号

次年度地区大会開催の件。



LET SERVICE LIGHT THE WAY

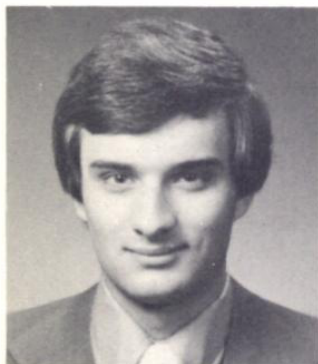
それぞれの決議について説明が行なわれ、全員拍手で議決を行った。その後セレモニー通り進み七尾クラブ創業25年目に当り、前回の魚津大会に続いて新制の第2回目の261地区大会であったが、



「能登の海大きく広がれ奉仕の輪」のスローガンに成巧裡に終始し、豊かな実りをもって幕を閉ざした。

出席者 小杉(善)、宗田、岡田、若野、上田、塩村、飯野、土原、下村、中村(三)、中村(省)、山岸、二木、市川、木下、越野、小杉(守)、増江、大場、柴田、小間井、館山、釣見、高田、清水弘子、大村淳子、飯野郁子、越野和加、ジョン・ウォレンタ

交換学生 ジョン君のご挨拶



私はジョン・ワレンタです。

あなた方の姉妹都市バッファロー市 (U.S.A・ニューヨーク州) から来ました。私は金沢に8月25日に到着しました。そして私はあなた方の国を気に入りました。

金沢の人々はとても親切で協力的で私はこの一年間、あなた方のもとても珍しい文化と歴史について学び・理解する機会を楽しみにしています。

私はバッファローの私の家族と生活についてのべたいと思います。

私のうちは四人家族です。私のお父さんはケンモア (バッファロー

の郊外) の牧師です。彼の趣味は舟あそびとオペラ鑑賞です。お母さんは主婦です。お兄さんはセラキウス大学の法学部にいっています。バッファローでは私はケンモア西高校にいます。私は3年生で来年の7月卒業する予定です。

私は英語と歴史が好きです。趣味は短波放送を聞くこと、鉄道模型とジョキングです。私はバッファローに帰ったらバッファロー大学に入るつもりです。私は東洋史と勿論、日本語を勉強するつもりです。私の最後の目的は大使館の仕事に従事することです。

ご存じの通りアメリカの生活は日本の生活とほとんど変わりません。私は二つの国の間に存在する友情の本当の強いきづなを理解し評価することは我々の二つの文化に於ける類似によると信じています。



先人に学ぶ(3)

— ロータリーの原点をたずねて —

柴田 三郎

今は亡き、かつての金沢大学医学部教授の柿下正道博士は、今、金沢経済同友会代表幹事をつとめられる福光博さんと、私の三人同時に、昭和28年3月、時の金沢RCに同時入会の、いわゆる同期生ですが、柿下さんにはロータリーの理念を、福光さんにはその実践を、それぞれ多く訓えられ且つ学びました。

或る時、柿下さんに、「先生、ロータリーとは何んぞや、と一口に言えば……」と、むづかしいお質ねをしたところ、柿下さんは躊躇するところなく即座に「ロータリーとは、人間を人間らしくするところ」と、お応えになりました。私は、「これだ……」との感銘を深くいたしました。「人間らしき思いやりのないロータリーはナンセンス」と、言うことであります。こんな人にこそ、ガバナーとして広くロータリアンの指導者となって欲しいのですが、とうとう、最後までご辞退を続けられました。一方、福光さんは、私の久しく尊敬して止まない実業人であり、いかにもロータリーを身につけた人であります。

* * *

金沢北RCとの縁古も深い、日本ロータリーの俊英バストガバナー、東京東RCの佐藤千寿先生は、「ロータリーは形より魂が大事である……。目に見えるネクタイは締めなくとも、目に見えない禪(ふんどし)は、しっかり締め直さねばならぬ……」と、いう意味の警告をしておられます。

味合いの深い名言であります。私は、20数年、ノーネクタイで通して来ましたが、決して、ネクタイ無用論者ではありませんし、むしろ男性唯一のオシャレに、心豊かささえ感じ、私など、他人さまのセンスのいいネクタイを眺めつつ楽しんでいるくらいです。

松任RCでは、「例会にはネクタイを……」と、強調した時代がありました。例会が、ロータリーの修練の道場であるという観念に立つなら、衿を正して例会に臨むのも、見上げた行動と言わねばなりません。先年、ある関西の大学で、外人教授が、女子学生が教室に入るとき、ジーパンでは困る……と、言って問題になったことがあります。「心は体をなす」と、言います。私のようにネクタイも締めず、禪もゆるんでいては最低と言わねばなりません……。

* * *

安積得也先生は、東京南RCのメンバーで、当クラブとは、おなじみであります。偉大なる社会教育者であり、クリスチャンで、いかにも、ロータリアンらしい人格者であります。アメリカの例会には、「祈・笑・転・結・体・質・時がある……」さすがロータリー発祥の先進国であると、御講演にありましたが、私も至極同感で、日本の例会に欠けている大事なものを、ズバリ指摘されています。最初の「祈」は祈りです。ロータリーの会合の始め、ロータリーソングを合唱したあと、たとえ、ひと時でも結構です。瞑想し、感いは合掌し、またクリスチャンなら「アーメン……ほんとうにそうでありますように」と、十字を切って、いま歌ったソングに対し誓うのが、ほんとうだと思います。或るクラブでは、歌は気持ちをほぐすためである。「春の小川」でも「雪やコンコン」でもいいのだ……と言いますが、それは違う……と、私は思います。

ロータリーソングは、あるから唱うのではなく、一杯飲んで口ずさむ流行歌と異って、厳粛であるべき誓いの言葉である。と、私は確信しています。

	O	I	G	H	N
優勝 佃 一成	47	51	98	27	71
2位 山上 啓介	42	45	87	13	75
3位 桜井 健太郎	46	50	96	19	77
B・G 山上 ニヤビン					
B・B 小杉(守) バディー					
				塩村、山上	
				山上、桜井	